

## 救命救急センターにおける研修の目標、方略(方法)及び評価

<b>1 独自の研修目標・目的</b>			
(1) 生命や機能的予後に係わる緊急を要する病態や疾病, 外傷に対する適切な診断・初期治療能力を身につける。 (2) 救急医療システムを理解する。 (3) 災害医療の基本を理解する。			
<b>2 救命救急部研修の特徴</b>			
(1) 当院救命救急センターは宮城県内で最多の救急受診患者数(16376人)・救急車搬入患者数(6533人, いずれも平成19年度)の実績があり, 日本救急医学会専門医および各診療科専門医の指導下に幅広い救急患者の診療に当たることが可能である。 (2) オンラインメディカルコントロール, ドクターカーの運用, 救急救命士の通年病院実習を通じて救急医療システムを現実的に体感することが可能であり, さらにDMATの存在が災害医療の基本を理解するのに効果的である。			
<b>3 研修の目標・目的達成のための方略・方法</b>			
(1) 日中は救急専門医および各診療科専門医の指導下に多数の救急患者の診療に当たる。 (2) 時間外は当直医師グループの一員として救急患者の診療に当たる。この際, 必要に応じて各専門医にコンサルトする。 (3) 当日ドクターカー担当の救命救急部医師とともにドクターカーに同乗して, 病院外救急診療・救急医療システムの実際を学ぶ。 (4) 院内BLS, ACLS, PTLIS, PALSの講習会に参加する。 (5) 院内各種カンファレンスに参加する。			
<b>4 目標達成の評価</b>			
(1) on-the-job training: 救急患者の診察・鑑別診断・治療方針等について指導医がチェックを行う。 (2) off-the-job training: 各種院内講習会・カンファレンスに参加するとともに, 模擬診療(OSCE)による評価を試みる。 (3) 研修期間終了時に複数職種からの評価を行う。			
<b>5 検査</b>			
救命救急センターで行える一般検査全般。心電図, 超音波検査, 内視鏡検査, 画像検査(一般撮影, CT, MRI, DSA, SPECT等), 各種モニター等。			
<b>6 カンファレンス</b>			
(1) 救急受診患者レビュー(毎朝) (2) 救命救急センター病棟廻診(毎朝) (3) 死亡症例レビュー(毎週) (4) 抄読会(毎週) (5) 救命救急センター症例検討会(毎月) (6) PTLIS (Primary-care Trauma Life Support)勉強会(毎月) (7) メディカルコントロール症例検討会(毎月)			
<b>7 週間スケジュール</b>			
	～8:30	午前・午後	夕方
月	死亡症例レビュー センター病棟回診	救急患者診療・センター病棟・ドクターカー	PTLIS勉強会(毎月)
火	抄読会 センター病棟回診	救急患者診療・センター病棟・ドクターカー	センター症例検討会 (毎月)
水	救急受診患者レビュー センター病棟回診	救急患者診療・センター病棟・ドクターカー	
木	救急受診患者レビュー センター病棟回診	救急患者診療・センター病棟・ドクターカー	
金	救急受診患者レビュー センター病棟回診	救急患者診療・センター病棟・ドクターカー	
<b>8 研究活動等</b>			
症例報告を中心に各種研究会・学会での発表を奨励(仙台外傷症例研究会, 宮城県救急医療研究会, 東北救急医学会等)			